

平成28年度授業改善推進プラン 《社会》西東京市立ひばりが丘中学校

●児童・生徒の学力向上を図るための調査(中2)

課題の見られた問題の概要	結果
飛鳥時代から鎌倉時代に建てられた建造物の建てられた順番を問う問題	30.8%
EUに加盟しているヨーロッパの国々の共通する内容	39.5%
ヨーロッパ大陸の南北の断面地形の正しい形を問う問題	39.0%

●調査結果を踏まえた学力等に関わる成果と課題

成果	課題
地理的分野や歴史的分野も重要語句等の基礎的な用語については基本的な知識として、生徒全体に身につけてきている。また、地理の世界の国の特徴や位置、歴史の年表などの大まかな時代や出来事の流れなども理解できるようになった。	テレビや電子黒板などが使用できないため、歴史的分野での文化の部分のビジュアル(写真)を共通して理解することが資料集だけでは、定着できなかったようである。また、地理的分野では、地形的な部分の学習の確認が、不十分であったため、今後は確認する必要がある。

●前年度の取組及び本校の実態を踏まえた学力等に関わる成果と課題

成果	課題
地理的分野では、基本重要語句の他に気候の部分を雨温図とその特徴を中心に行なったので、世界の各都市についての理解をすることがよくできた。歴史的分野では、鎌倉時代を中心に正答率が高く、基本的な知識の理解が進んでいる。また、身近な地域の地図の読み取りでは、その特徴が理解できている。	地理的分野では、基本的な重要語句や個々の世界の国の位置や特徴だけでなく、全体的な地形の特徴などについてもビジュアル化して、生徒に共通理解をさせる必要がある。また、2学年では、生徒たちにより調べ学習などを中心にしたアクティブ・ラーニングを徐々に取り入れていくことが課題である。

●学年ごとの課題及び改善策等

学年	生徒の実態及び指導上の課題	具体的な授業改善策
1年生	発問への反応(挙手等)がしっかりあり、グループ活動での意見交換には意欲的に取り組む生徒が多い。基礎・基本的な知識の定着を図り、資料を読み取り活用する力を伸ばす必要がある。	各単元に頻出する基礎・基本となる重要事項は、単元間の関連性を確かめながら可能な限り多角的にアプローチするよう授業を工夫して知識の定着を図る。ICT等を活用し、資料の活用に取り組みやすくなるように授業の展開を工夫する。
2年生	社会科が好きな生徒が多く、授業中も真剣に取り組んでいる。ただ、小学校での学級崩壊の影響もあり、基礎的な知識が欠けている生徒が多い。まず、その部分からの取戻しが必要である。	社会科の基礎・基本となる重要事項についての授業を積み重ねながら、できるだけ視覚等に訴える(ビジュアル化)の授業も工夫して、取り入れていきたい。また、生徒の作業活動を中心としたアクティブ・ラーニングも徐々に取り入れたい。
3年生	意欲的に学習課題に取り組もうとする生徒が多い。一方で、内容については単純に覚えることを重視しているためか、理解したり、考察したりする力が弱い傾向がみられる。	現代社会の成り立ちやその課題について、これまで獲得した知識を生かした学習展開を工夫する。また、生徒自ら考え、意見交流をするなどしてさらに知識が深まる取り組みを積極的に行う。

●学校全体で取り組む内容

- ・世界や日本の各地域・大きな時代のまとまりなどの調べ学習を行うことで、地理や歴史の学習内容を自分の生活と関連付けたり比較したりすることができるようにする。そうした取り組みから、学びを生徒自身が深める機会を設ける。
- ・学習課題についてのグループワークの場で話しあい、意見交換を行うことで自分の考えをもち、表現できる機会を授業中に設定する。
- ・知識を過去の物とせず、現代社会における生徒の生活等に結びつくだという気付きにつながる授業展開を目指す。